ICOLD をめぐる動き（第 36 報）

― ICOLD 第 84 回ヨハネスブルグ年次例会総会―

松　本　徳　久*

今回は，ICOLD 第84回ヨハネスブルグ年次例会の主として総会について報告する。

日程とプログラムを次表に示す。

月日	行事		ツアー 文化行事など
	午前	午後	
５月15日（日）	ICOLD 幹部会	ICOLD 幹部＆事務局会議	プレツアー テクニカルツアー シティツアー
５月16日（月）	ICOLD 幹部会 技術委員長会議 若手技術者集会（YEF）	技術展示会開会式 記者会見 技術委員会ワークショップ フランス語グループ集会	シティツアー 同伴者ツアー 歓迎会
５月17日（火）	技術委員会	技術委員会 地域クラブ	同伴者ツアー 若手技術者懇親会
５月18日（水）	国際シンポジウム		同伴者ツアー 文化行事
５月19日（木）	ワークショップ（並行２セッション）		テクニカルツアー 同伴者ツアー 日本人会
５月20日（金）	総会／展示閉会式 ワークショップ（並行２セッション）		同伴者ツアー 送別晩餐会
５月21日（土）	ポストツアー　出発		

年次例会の参加者は Web に掲載された参加者リストでは838名（同伴者含まず）である。日本大ダム会議（JCOLD）からは，57名（＋同伴者１名）が参加した。もっとも参加者が多いのは開催国の南アフリカで152名，次いで中国69名，日本は３番目に多い国である。その他，フランス45名，イラン44名，米国34名，カナダ29名，スウェーデン29名，隣国のレソト王国23名である。ただし，名簿に掲載されていない参加者もあり，シンポジウム開会式では1,200名，送別晩餐会では1,100名と紹介された。なお，国際シンポジウムが６月18日（水）に開かれたが，若手技術者賞（論文賞，発表賞各１名）のうち，論文賞は「土砂バイパストンネルにおける掃流砂計測システムの開発」小柴孝太氏（京都大学防災研究所）が受賞した。

以下におもな議事を紹介する。

（1）副総裁選挙

ヨーロッパ地区（スペインのポリモン氏後任）は Michel Lino 氏（フランス）一人の立候補であった。第６ポスト（カナダのジーリンスキー氏後任，昨年米国のロジャースさんが副総裁となったので南北アメリカ地区ではなく地域を問わない第６ポスト）も中国の Zhou Jianping（周建平）氏一人が立候補であり，両者とも選挙はなく挙手で信任された。

（2）次回の年次例会での副総裁選挙

来年の副総裁選挙について Michel de Vivo 事務局長は次のように表明した。2017年にはヨーロッパ地区の J Leif Lia 氏（ノルウェー），とアジア地区の Kyung-Taek Yum 氏（韓国）の任期が満了となる。Lia 氏の後任は2018年に大会を開催するオーストリアから選出，Yum 氏の後任は第６ポストとして全地域（アジアからは中国の周健平氏が今回当選している。ただしヨーロッパを除く）から立候補できる。

* 一般社団法人日本大ダム会議 専務理事，一般財団法人ダム技術センター 顧問

（3）大会開催を3年から2年毎に変更する提案

ICOLDの大会は今まで３年毎であるが２年毎に変更することが米国（副総裁M. Rogers氏）とカナダ（副総裁P. A. Zielinski氏）から提案された。利点として次のことが説明された。

- 大会課題は４課題から３課題に減らし，議題をしぼり，議論に時間をかける
- これにより６年毎に扱える課題は８課題から９課題に増やせる
- １回の大会で集中して質の高い発表と議論ができる
- 大会頻度を高めることにより，特定の関心ある課題はより定期的に議論できICOLD内での連携が強まる
- 大会は参加者が多く，ICOLDの収入増加が見込める
- 他の高いレベルの技術集団や学会は２年毎にICOLDの大会相当の会議を開いている

これに対して①小さな国では大会の準備は大変で開きにくい，②大会の登録費は高い，経済負担が増える，などの多くの意見があり提案国のカナダが来年に見送ると述べ，採決をしたところ「見送り」が賛成多数で次年度以降に検討することになった。

（4）年次例会の開催地の連続同じ地域での禁止

韓国（会長Gyewoon Choi氏，副総裁Kyuntaek Yum氏）が年次例会を連続して同じ地区で開くことを禁止することを規約に明文化するという提案を出した。年次例会を同じ地区で連続して開かないことは役員会議等では暗に合意されていたが，2017年のプラハ，2018年のウィーンと連続開催となり，規定に明文化すべきというものである。

- 各地域に課題がありそれぞれの課題にタイミングよく対応する必要がある
- 地域クラブが一同に会する機会を均等に持つ
- 各地域の種々異なる文化と水問題をよりよく理解する
- なるべく多くの国・地域が年次例会，大会を開催できるようにする

採決では賛成46，反対12で可決された。

（5）2018年ICOLD大会課題の選定

次の大会（2018年ウィーン）の課題は，あらかじめ各国国内委員会に対しアンケートを実施した結果を事務局が８課題に集約し議案書に記載されている。そのうちの４課題の投票が行われ下記の通り決定した。

Q100 堆砂対策（総裁提案）
Q101 安全とリスク管理
Q102 地質とダム
Q103 小ダム

（6）新規加盟の希望

エクアドル，アンゴラ，ブータン，トーゴ，ベニン，モンゴル，ナミビア，リベリアが加盟の意向を表明している。事務局長は総会に非加盟の９ヶ国が出席していると強調した。

（7）次回年次例会の開催地の準備状況報告

2017年　第85回年次例会　プラハ
2018年　第86回年次例会大会　ウィーン
2019年　第87回年次例会　オタワ

（8）2020年　第88回年次例会の開催地

立候補がインド大ダム会議のみでありニューデリーに全会一致で決定した。

なお2021年にはイランが招致を表明した。

（9）技術委員会報告書

４委員会からの報告書出版が承認された。

- 地球規模での気候変動とダム，貯水池，水資源施設（全会一致）
- ダム，堤防，基礎における内部侵食　第２巻（全会一致）
- 洪水評価とダムの安全（全会一致）
- 多目的貯水池（賛成41票，反対１票）

（10）会計報告

概ね健全であると報告了承された。

（11）功績表彰

総会では全会一致で南アフリカのPaul Roberts氏（元南ア大ダム会長，元ICOLD副総裁）とオーストラリアのLen McDonald氏（元ICOLDダム安全委員長）に功績賞を贈ることを決議した。